

令和 4 年 2 月 25 日

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究 A	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
612300	
選定番号	A147

代表者 校園名： 大阪市立難波中学校  
 校園長名： 鍋谷 賀都緒  
 電 話： 06-6562-4477  
 事務職員名： 川地 幸子  
 申請者 校園名： 大阪市立難波中学校  
 職名・名前： 主務教諭・平島 陽介  
 電 話： 06-6562-4477

## 令和3年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和3年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ		多様な性（SOGI）と学校課題		
3	研究目的		<ul style="list-style-type: none"> <li>○「SOGI」「アウティング」等、重要かつ認知されているとは言い難い用語・知識の伝達</li> <li>○セクシュアルマイノリティ当事者の困り感や生きづらさへの理解の拡充</li> <li>○「多様な性」に関する、児童生徒が系統立てて学べる発達に応じたカリキュラムの作成</li> <li>○研究内容を実践課題に取り入れることによる、教員の資質向上と当事者生徒の安心感の向上</li> <li>○「SOGIを意識した未来の学校」づくり</li> </ul>		
4	取り組んだ研究内容		<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSゴシック 9.5pt イント）</p> <p>実施した全定例会をセクシュアルマイノリティ当事者講師の方の助言を借りて実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>研究グループの知識向上を経て、他の教職員に広げる。書籍、動画をグループSNSで共有し、定例会ごとに確認。各自が話し合いでアウトプットする時間を設け、受け身にならない方策をとる。カリキュラムデザイングループ、学校の慣例的な性差を強調する事柄を見直すグループ、研修・授業企画グループの3つの小グループに分けて研究、全体共有で確認した。</li> <li>教職員研修会。幼・小・中と発達に応じた課題を抱えるため、各校園の教職員にも参加を呼びかけた。研究グループより学校課題（特にいじめ被害、不登校、自傷、自殺率に関するデータ）の提示ののち、セクシュアルマイノリティ当事者の講師の方より講演。</li> <li>保護者講演会。カミングアウト保護者へのハードルの高さに着目し、生徒の安心感向上をはかるため、ホームページ・チラシで周知し、後日動画のアーカイブ体制も整えて実施。セクシュアルマイノリティ当事者講師2名を招いて、わが子や友人がカミングアウトをしてきたらどうするかなどについて講演。</li> <li>2,3年生向け出前授業と放課後相談サロンの実施。セクシュアルマイノリティ当事者講師2名を招き実施。多様な性に関して知っておくべきこと、悩んだらどうするかなどについて授業。放課後に図書室を開設し、講師の方と和やかにトークできる場を開設。生徒が自ら自己開示し、他の生徒と交流する場面が多く見られ、さらに別室で個別相談も行うことができた。</li> <li>1年生研究授業。担任とセクシュアルマイノリティ当事者講師のペア授業。「誰でも実施できる授業」づくりの一環として、生徒にとって最も身近な担任と講師の方がペアになって授業実践。担任のSOGIに関するさまざまな話と、講師の方の経験を合わせた話は生徒の興味関心を大きく引き出した。放課後相談サロンでは、出前授業以上に自己開示する様子が見られ、自分の特性や家庭的に厳しい状況を話し、相互に受容する様子が見られた。</li> <li>カリキュラムの構築。従来の養護教員が提示する散発的な投げ込み授業から、発達に応じて3年間系統立てた性教育を講師の方と検討した。多様な性の授業も含めた性教育の計画案、指導案、スライド、教材等をまとめ、研究発表会にて提示し、次年度以降実施する。</li> <li>慣例的な学校規則などの見直し。男女別、席順、体育の授業、音楽のパート分け、「みんなのトイレ」の明示と周知など、学校の慣例となっているもの、教科、行事等を見直し、学校としてできることを随時見直すことを研究発表会にて提案。生徒には集会等を通じ、変更の趣旨の説明と合わせて行うことで、安心感の醸成と合わせて進めている。</li> </ol>		

		研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。							
5 研究発表等の日程・場所・参加者数	日程	令和4年2月8日	参加者数	約30名					
	場所	難波中学校							
	備考	講師3名をオンラインで招いて実施。3つの小グループよりそれぞれ発表、全体まとめ、講師の指導助言という形で実施。							
大阪市教育振興基本計画に示されている、 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u> について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。									
<p><b>【見込まれる成果1】</b>          校内教職員向け研修会を実施することで、教職員の生徒への声掛けの仕方や案の出し方が変わることが期待される。セクシュアルマイノリティ当事者の生徒がいる場合にも、教職員側からの安心感のある行事や取り組みの案となる。結果として全生徒にとって過ごしやすい学校づくりにつながる。</p> <p>《検証方法》          生徒の安心感を確認するアンケートは生徒自身の「カミングアウト」になるため、実施できない。          5月当初に実施する教職員向けアンケートから、9月校内研修会実施後のアンケートの同一回答部分に関して、教職員の肯定的な回答が上昇し、80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕          幼・小・中で連携し教職員研修会を実施。その他、保護者後援会や研究授業も含めた、その他取り組み等を含めた学校組織としての対応の向上を見込んで、様々な角度から教職員へ伝達した。6月、1月に実施した教職員アンケートの結果、SOGI、LGBTQについて肯定的な回答はそれぞれ50%から78.5%、58.3%から87.5%へと向上した。</p>									
<p><b>【見込まれる成果2】</b>          セクシュアルマイノリティ当事者による講演会を校下小学校・中学校・中学校保護者向けに実施することにより、大人が知識の定着、当事者の困り感や学校課題について知ることができます。</p> <p>《検証方法》          講演会後に実施する保護者向けアンケートにより、SOGIと学校課題に関する各項目について、肯定的な回答を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕          当初保護者の知識向上を見込んだが、研究を進めるにつれ、生徒の保護者へのカミングアウトへのハードルが高いということを知り、そこへのケアも含めて実施した。セクシュアルマイノリティ当事者講師2名を招いた。コロナ禍でオンライン対応、動画のアーカイブ対応で実施し、28%の中学校の保護者が参加した。保護者の勉強会のような講演会を開く機会がないため、28%がどの程度なのかは検証できないが、参加の保護者からは「もしわが子がカミングアウトしてたらという視点は初めて持った」「これからは男の子としてではなく、ひとりの人間としてわが子と接していく」という意見があった。</p>									
<p><b>【見込まれる成果3】</b>          制服デザインの変更をはじめ、学校におけるセクシュアルマイノリティーに配慮した取り組み案を職員会議にはかり、随時可能なことは変更していく。今年度中に変更せず、次年度以降に検討する案も振り分けて検討する。</p> <p>《検証方法》          生徒議会や各種委員会、生徒の意見箱や毎週実施の「週末アンケート」等で、取組変更後の生徒からの感想を集約し、肯定的な回答を集めるとともに、新たな課題が見えてくれば次年度以降再検討案として継続協議につなげる。</p> <p>〔検証結果と考察〕          制服モデルチェンジの際、セクシュアルマイノリティにばかりクローズアップされるとかえって提案が難しくなる点への視点から、機能性や安全性等の課題と並行して生徒、PTA、保護者にアンケートを取りながら説明。新入生保護者説明会後には、在校生と新入生保護者向けに制服説明会も実施した。また、学校の慣例的に性差を強調する取り組みや行事、授業などを見直し、研究発表会にて教職員に提示。教員側の安心感も損なわないよう無理なく変更できることから見直していくよう確認ができた。今後は集会等を通じてなぜ変更するのかなどの話しながら学校として見直しを進めていく。</p>									
6 成果・課題									

研究コース

グループ研究A

選定番号

A147

代表校園

大阪市立難波中学校

校園長名

鍋谷 賀都緒

6	成果・課題	<p><b>【見込まれる成果4】</b></p> <p>公開授業を含めた、セクシュアルマイノリティ当事者を交えた研究授業を行うことで、生徒が自ら、「SOGIと学校課題」について知識を深め、セクシュアルマイノリティ当事者が当たり前に身の回りにいることへの理解、言動の変化が現れる。</p> <p>〔検証方法〕</p> <p>研究授業後に生徒向けアンケート・感想文を実施し、生徒の心の変化をとらえる。また、その結果を2月の研究発表用の冊子に記載する。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>出前授業、研究授業を通して、SOGIとして自分の性をとらえ、さまざまな性の考え方があることへ理解を深め、特にマイノリティの方はすでに困っていたり、違和感を抱えたりしている人もいるということがよく理解できたことが、事後の感想、放課後相談サロンでの話から分かった。特に放課後相談サロンでは自己開示、相互受容が見られ、そのような雰囲気が今後生徒自身の言動に肯定的に表れていくことも予見され、当事者生徒の安心感の醸成および個別の生徒の考えの変化に寄与したといえる。</p>
		<p><b>【見込まれる成果5】</b></p> <p>性教育カリキュラムを新たに作成することにより、次年度以降、校下小学校とも連携を図りながら、児童生徒の発達に応じた性教育の知識の獲得、意識の変化が現れる。</p> <p>〔検証方法〕</p> <p>次年度以降、カリキュラムに沿った授業等の取り組みを実施し、事後の振り返りアンケートなどで、生徒の心の変化をとらえる。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>講師の方のご指導のもと、発達に応じて3年間系統立てた性教育の計画を立てた。誰でも授業可能な体制を作ることを目指した授業の指導案を作成し、スライド資料、グループワークが可能な教材も入れたプランを作成した。</p> <p><b>【研究全体を通した成果と課題】</b> 具体的に記載してください。</p> <p>知識として知っているだけでは、いざという時に学校組織として適切な配慮や安心感のある対応ができる取り組みとなることは見込みにくい。どの知識をいつ伝え、いざというときにどのような配慮ができるかなどを冊子にまとめ、研究発表会で提示した。一見するとおもてに出にくい課題であるため、取り組みが継続されない可能性がある点が課題である。</p> <p>その点への対応として、次年度以降、人権教育委員会に主担者を置き、年度当初に研修会、折に触れて授業提示等ができる体制を構築していくことで、単年度の取り組みに終始しない、継続した取り組みとなるよう計画している。</p> <p>また、不登校やいじめ被害などの課題は生活指導部が担うところであり、深く関連している点にも注目している。人権教育委員会と生活指導部が垣根を作らず連携を図り、集会や終業式などの場で全体的な啓発の話も行えるような構内体制づくりに対する提案も行っている。</p> <p><b>《代表校園長の総評》</b></p> <p>昨年度に赴任した時、制服について配慮がなされていないことを不思議に感じていた。目的は「誰一人取り残さない」。その為には制服のモデルチェンジも課題の一つであった。しかし、そのためには保護者や卒業生にも配慮しながら、今の子どもたちのことを最優先として考え、教職員が自らさまざまな人権課題について考え、チームとして解決していく場が必要であった。また、一人の生徒の言葉もこの取り組みを大きく動かし、教職員が学校種別を越えてつながり、今ある課題解決のために連携・協力しながら研究を進めてくれたことが、今後のより良い学校を作っていくための出発点となつた。これを単年度の取り組みとしてではなく、継続していくことが重要であると考える。</p>